

ナマステ！

ご無沙汰しております。なかなかアップができていませんでした。というのも、今年最初の3ヶ月間は事務所全体がプランニングに時間を割かれたため、ここで紹介できるような内容はなかなか無かったのです。

それでも、ようやくプロジェクトも始動し始めたので、その内容をここで紹介します。

1. 思春期リプロ・ワークショップ

UNFPA ネパール事務所では、思春期リプロのプログラムにおいて、NGO だけでなく政府（保健人口省家族健康局）との連携を強めていくという方針を取ることとなりました。ドイツ連邦政府技術協力機関（GTZ：日本の JICA と同じだと思えば良い）が2、3年前から家族健康局の思春期リプロのプログラムを支援しているのですが、UNFPA も連携して支援することになりました。

その一環として、4月の中旬に家族健康局と UNFPA 共同主催の思春期リプロ・ワークショップが実施されました。ネパール国内でどのような

思春期リプロプログラムが実施されているのか（もしくは実施されてきたのか）、問題点や課題は何であるか、それに基づく今後の提言について、関連政府組織や NGO を中心に話し合ったり、それらについて再確認を行いました。



この手のワークショップはよく行われてはいるのですが、今回は政府（家族健康局）が主体となって行うという点が今までとの大きな違いです。

基本的には、1. 医療機関への思春期リプロサービスの導入；2. 思春期リプロの情報・教育；3. それらを可能にする環境、を軸にして話し合いました。

ディスカッション主体のワークショップということもあり、いろんな意見が出されました。例

えば課題点としては、組織間での連携がうまくなされていない、ガイドラインがあっても活用されておらず、かつ現状とガイドラインの記述には大きな隔たりがある、政府・学校・地域・メディアなどの認識不足、援助を受ける側が援助慣れしてしまっている、エイズと思春期リプロは類似点が多いにも関わらず、援助や寄付はエイズのほうに重きを置かれてしまっており、重要性がなかなか理解されていない、などなど。

実はこのワークショップはこれで終わったわ



けではなく、ここに出された意見と思春期リプロに関わってる団体にアンケートを行い、思春期リプロプログラムのマッピングを行うのが最終目標です。この原稿を書いている時点ではまだ完成していないので（いつできるかなあ…）、それが完成したらまた報告しますね。

（ひとり言：当ワークショップの準備は本当に疲れました…。家族健康局主体という形を取りながらも、実際いろいろ動かなければならないのは UNFPA など、これが本来の共同主催なのかどうか悩んだものです。これは私の場合に限ったことではなく、「援助団体が全部やってくれるだろう」的な考えが染付いてしまっているのかな、と思った次第です。まあ、全ての政府機関がそうだとは限りませんが。）



参加者と一緒に

2. <<番外編>>チトワン訪問 1

ネパールはヒマラヤの国という印象だけが強いですが、実はインド国境近くのタライ平原というところは、ジャングルなどもあります。ここには、チトワン国立公園という自然保護公園があり、ヒマラヤと並んで大きな観光地のひとつでもあります。

ここでは、ゾウに乗ってジャングルをめぐるエレファントライドと、カヌーに乗って川を下るアクティビティが人気です。もちろん私も、娘と一緒にいろんなアクティビティに参加しました！

エレファントライド



川をわたります



野生のサイに遭遇！全部で4頭も見ました。

カヌーライド



カヌーライドでは、バードウォッチングも同時にできます。チトワンにはたくさんの種類の鳥がいるのです。



水辺で日向ぼっこしているワニ

それでは、また次回！

飛田紫峰

Youth Development Officer - IUNV



UNFPA - because everyone counts.